毎日新聞（夕刊）

昭和46年(1971年) 9月17日 (金曜日) 4版 (8)

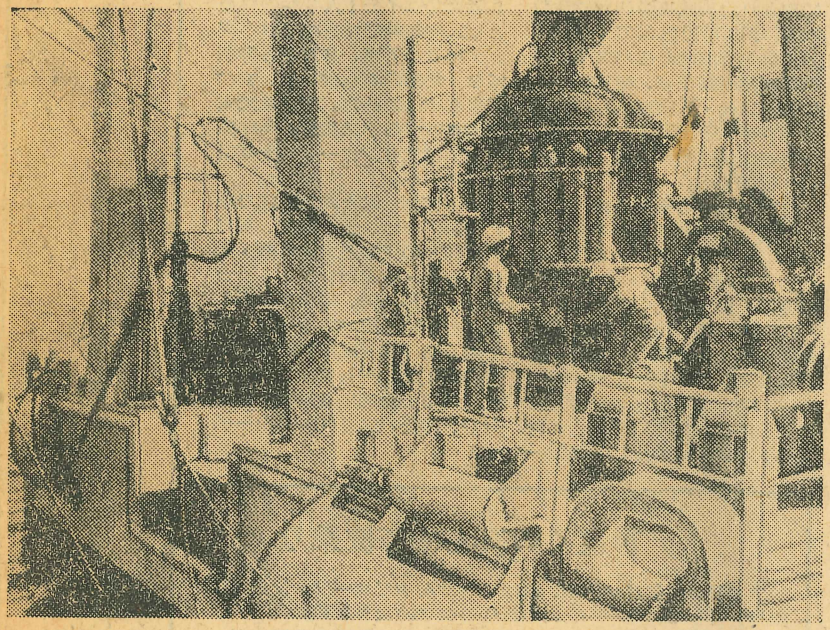
"シートピア"実験始まる

海底生活の夢来せて

【横須賀】人間が海底で長い期間、生活する"海底人間装置システム"を開発中の科学技術庁と海中開発技術協会（田川誠一会長）の「シートピア」（海の楽園）計画初の臨海実験が、十七日から神奈川県・横須賀港内で始まり、2DKの広さをもつ「海底の家」を港内の海底九㍍に沈める準備作業にはいった。

実験は台風25、26号の影響でのびのびになっていたが、快晴に恵まれたこの日午前九時、同港の甘粕産業汽船会社岸壁に全長十一㍍、直径二・三㍍の鋼鉄のタンク「海底の家」、アクアノート（潜水科学技術士）を海底に運び込む「水中エレベーター」、潜水病を防ぐ「減圧タンク」と、これら大型装置の機能を監視する"支援船"＝五〇〇排水トン＝が勢ぞろいした。この四つの大型装置が、システムとして有機的に動くのは今回が初めてである。

田川会長を総監督とし、装置を開発した三菱重工、日立造船、中村鉄工所などの技術員や十六人のアクアノートの隊長である清水信夫氏（深田サルベージ深海開発研究室長）ら約四十人が参加、まず支援船の手で約一・三㌔離れた同港東北東の防波堤わきの実験海域に引航され、午後一時から直径一・八㍍、長さ二・八㍍の鋼鉄製タンクの水中エレベーターが無人のまま四回にわたって沈められ、アクアノートを海底に送る予備実験を行なった。



「海底の家」を沈める実験準備をするアクアノートたち